

# 千葉県のがん対策に関するアンケート結果 (県内のがん患者団体会員向け)

**【未定稿】**

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

令和3年〇月

## 1 調査概要

### (1) 目的

第3期千葉県がん対策推進計画（平成30年度～令和5年度）の中間評価に当たり、がん患者の現状への認識及び将来への要望を把握する。

### (2) 調査対象

千葉県内の以下のがん患者団体の協力を得て、調査を依頼した。

NPO法人 支えあう会「α」  
行動するガン患者会「アクティブ」  
NPO法人 ねむの樹  
京葉喉友会  
千葉県オストミー協会  
アイビー千葉  
ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ

## 2 調査方法

無記名式のアンケート調査

各患者会にアンケート調査票と返信用封筒を郵送（又は手交）し、会員へ配布した。

回答は、ちば電子申請システムによるオンライン回答又は返信用封筒により、千葉県健康福祉部健康づくり支援課が収集した。

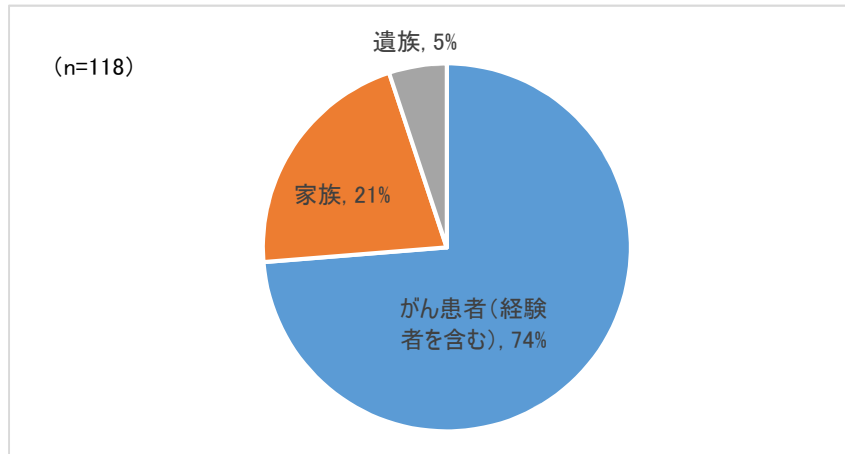
## 3 調査回収結果

配布数 370

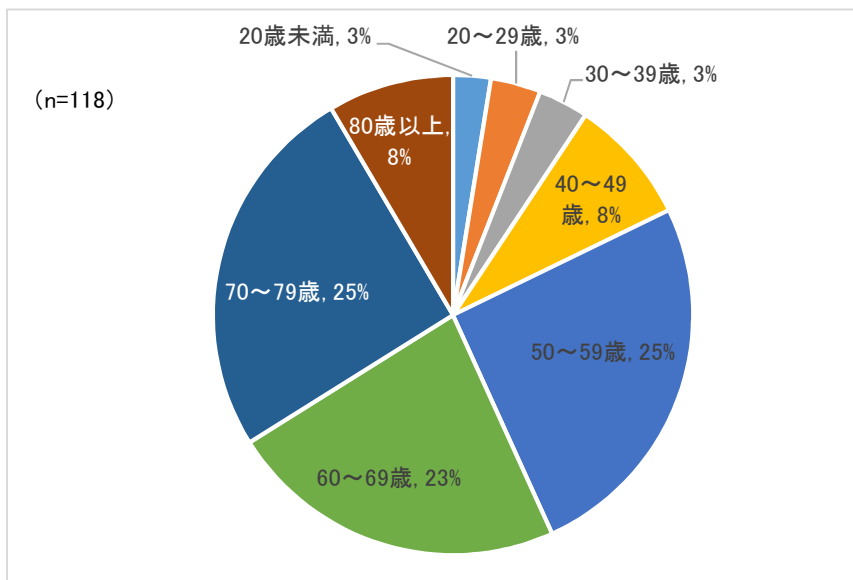
有効回答数 118 (31.9%)

うち、オンライン回答数：19、郵送回答数：99

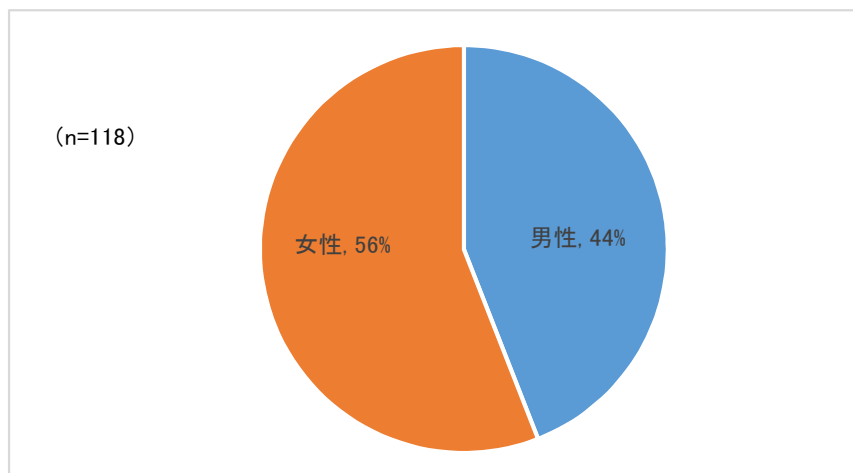
問1 このアンケートの記入者はどなたですか。



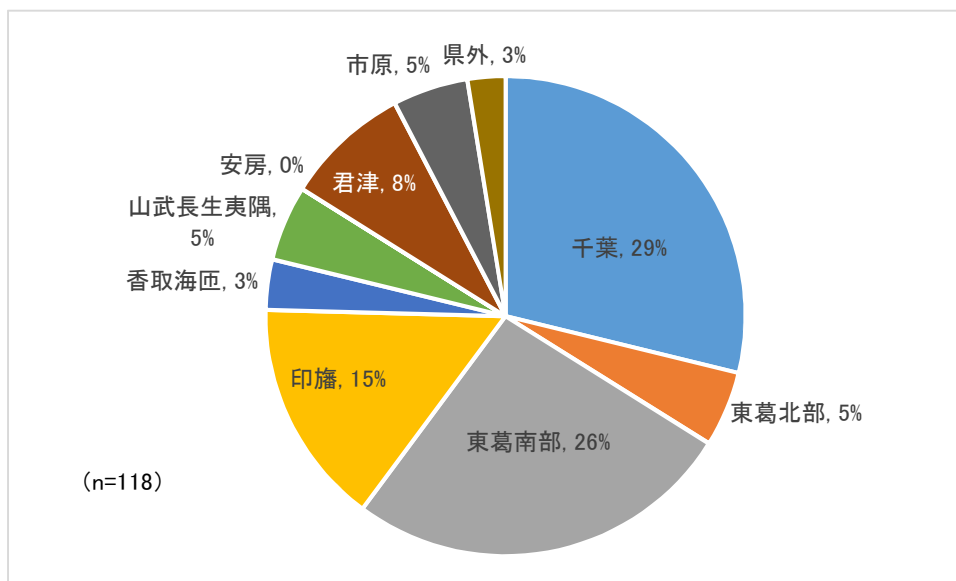
問2 あなた(記入者)の現在の年齢を教えてください。



問3 あなた(記入者)の性別について。

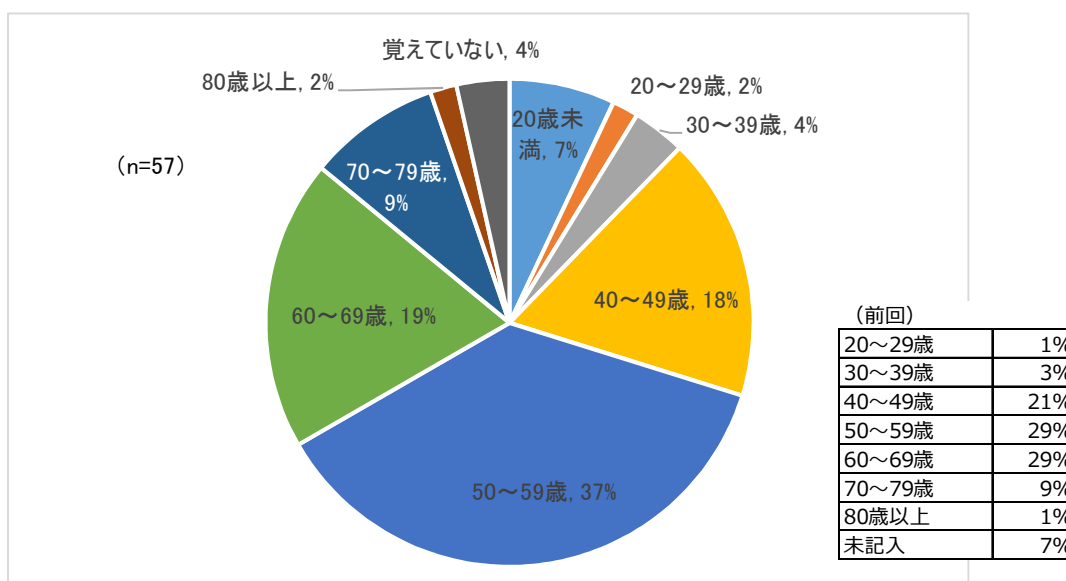


問4 あなた（記入者）の居住地について。

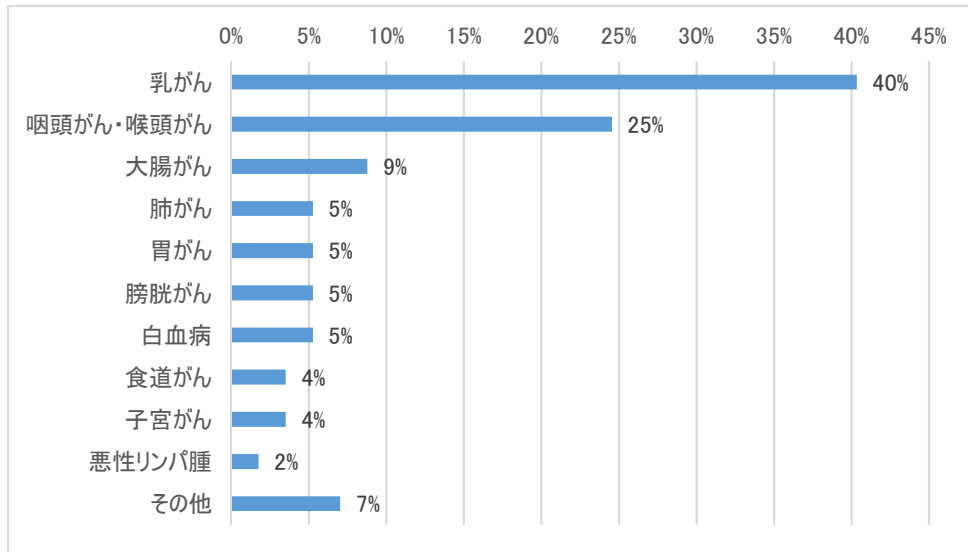


◆ 問5から問16までは、現在治療中の患者さんへの質問です。

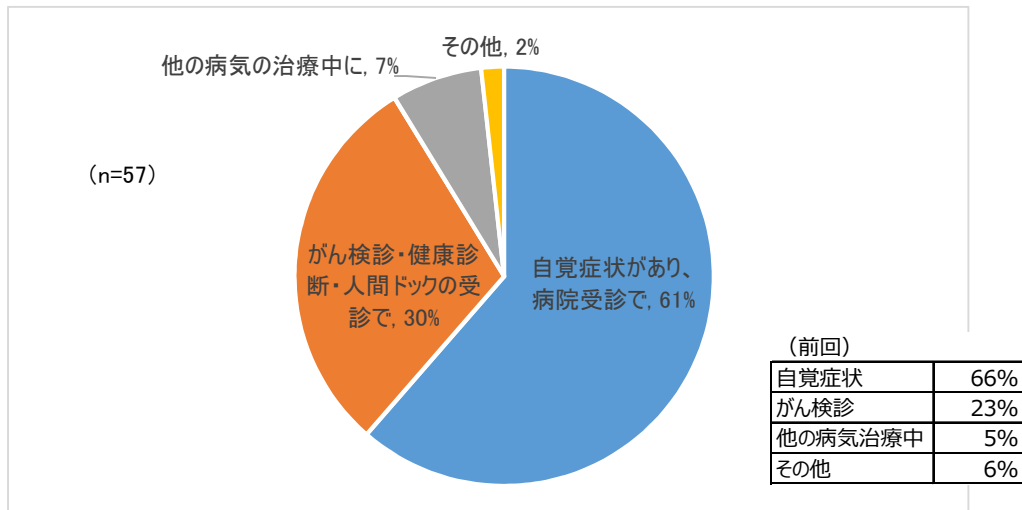
問5 最初にかんと診断された年齢をご記入ください。



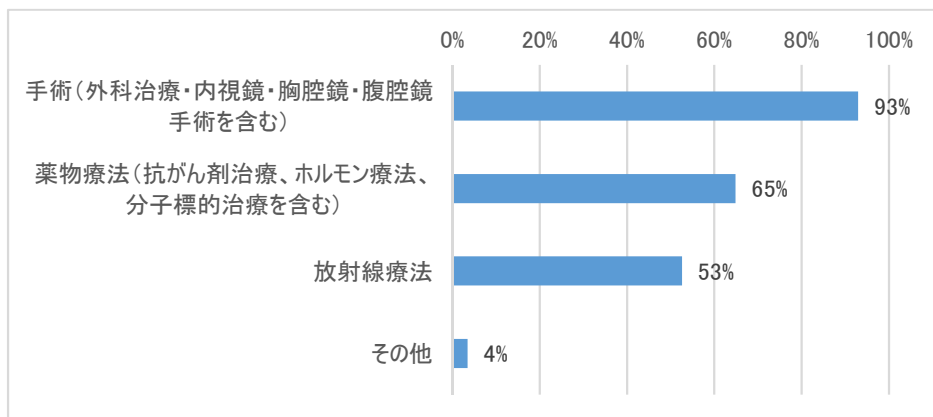
問6 最初に診断されたがんの種類について、教えてください（再発、転移を除く）。



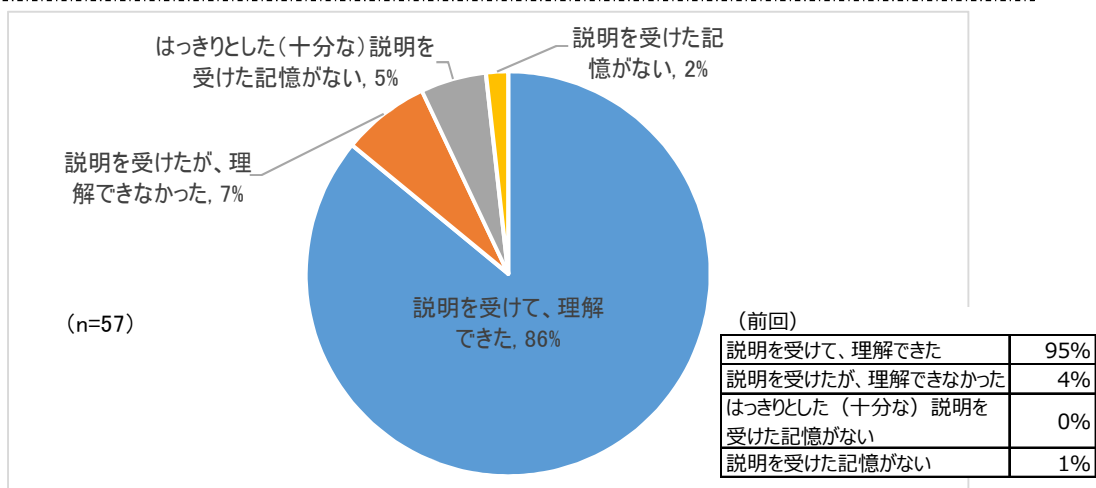
問7 最初に診断されたがんは、どのような状況で発見されましたか。



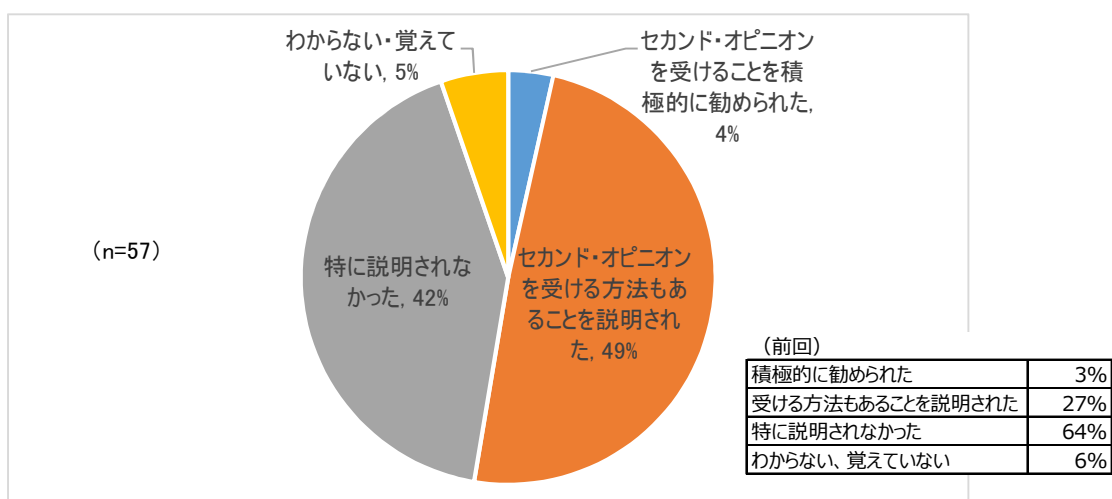
問8 これまでに受けた治療について、教えてください。（いくつでも）



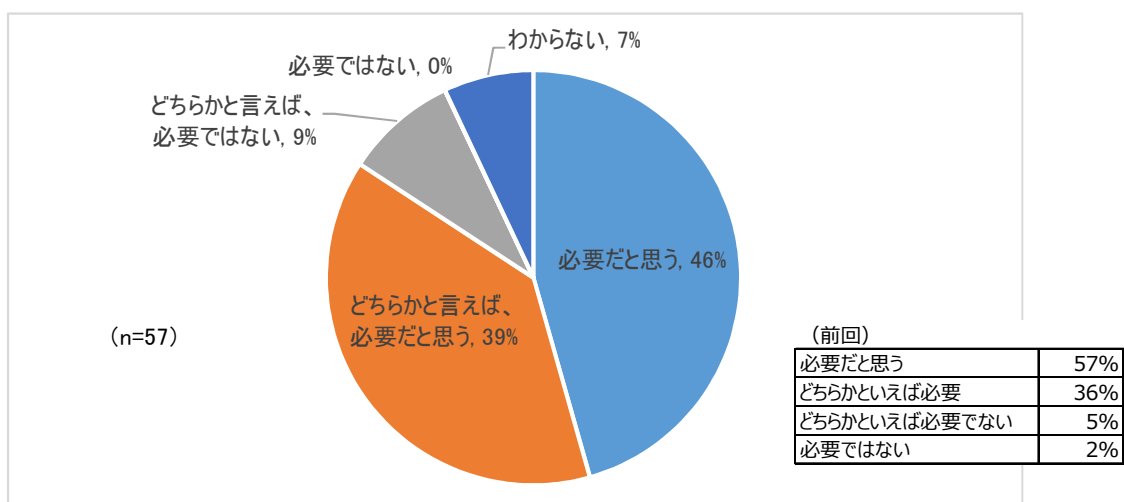
問9 がん治療を受けるにあたって、医療関係者から病気や治療について説明を受けましたか。



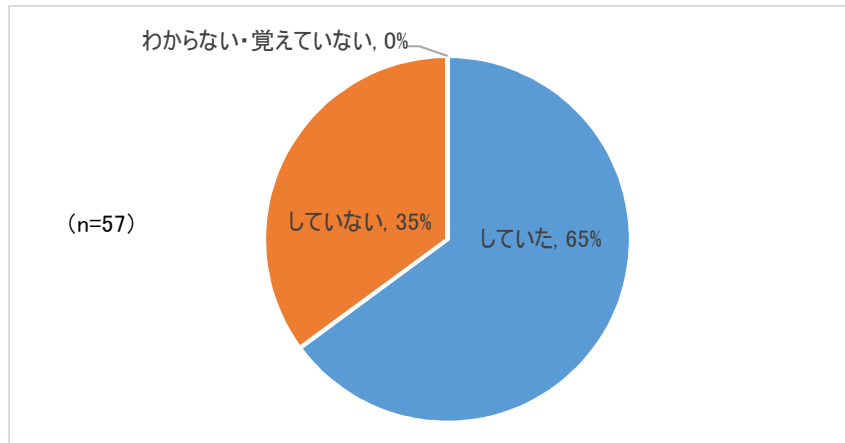
問10 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」について、どのように説明されましたか。



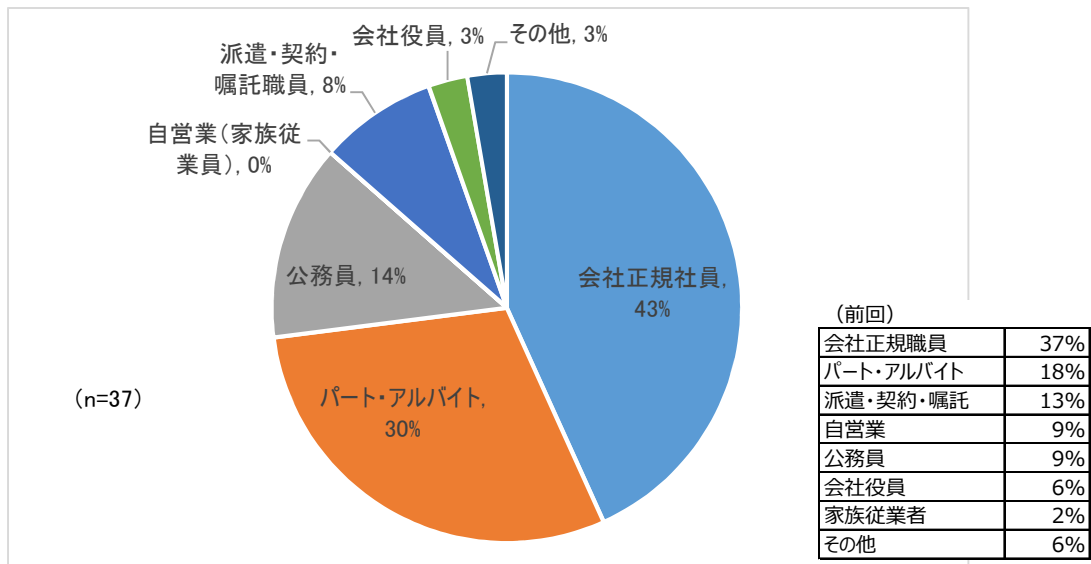
問11 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」が必要だと思いますか。



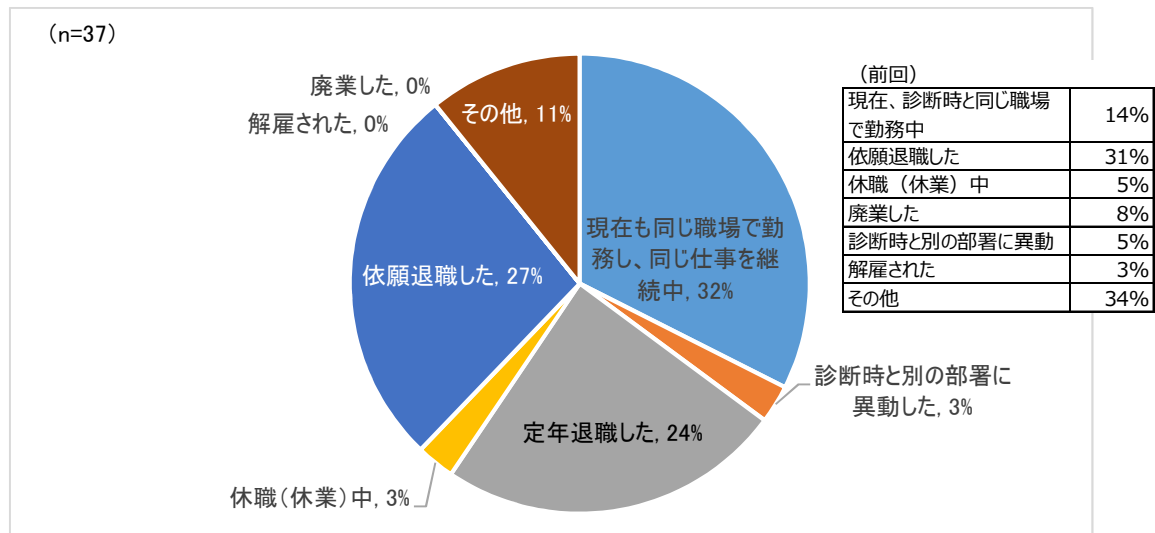
問12 最初にがんと診断された時に、収入のある仕事をしていましたか。



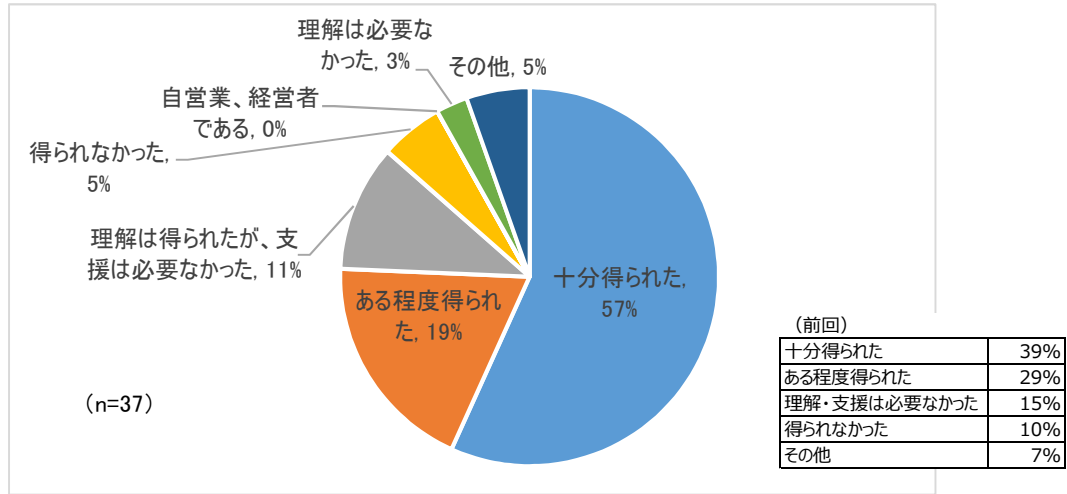
問13 あなたの診断時の職業は何でしたか。(問12で「していた」と答えた方)



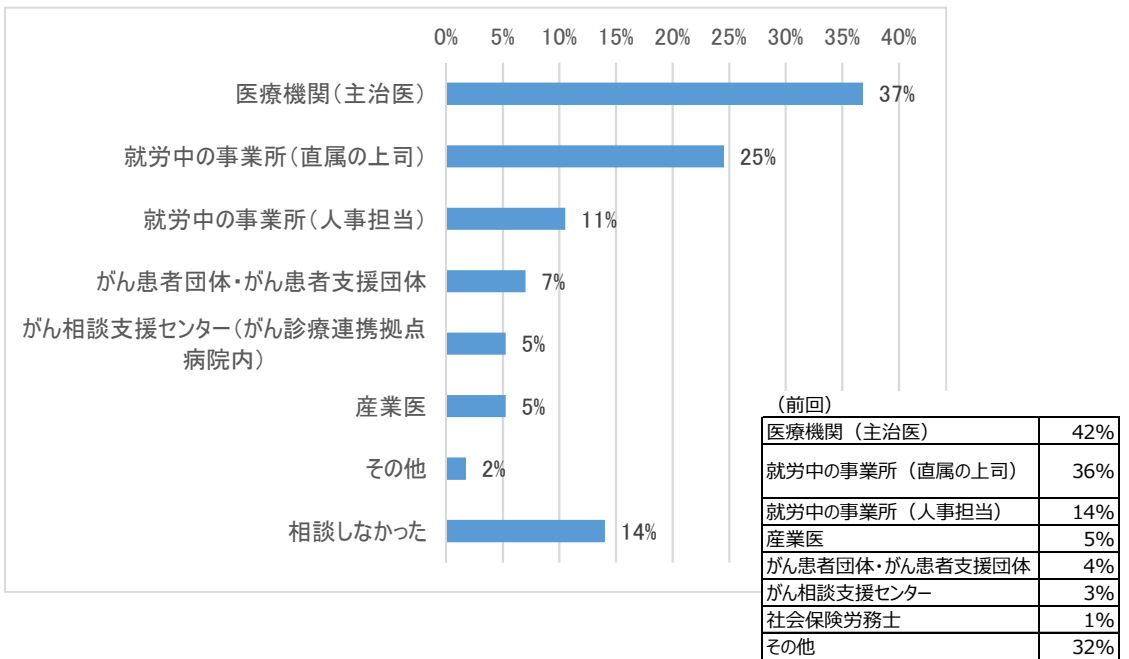
問14 現在、診断時の職場との関係はどのようになっていますか。(問12で「はい」と答えた方)



問 15 診断時の仕事を継続することに対する事業主の理解・支援は得られましたか。



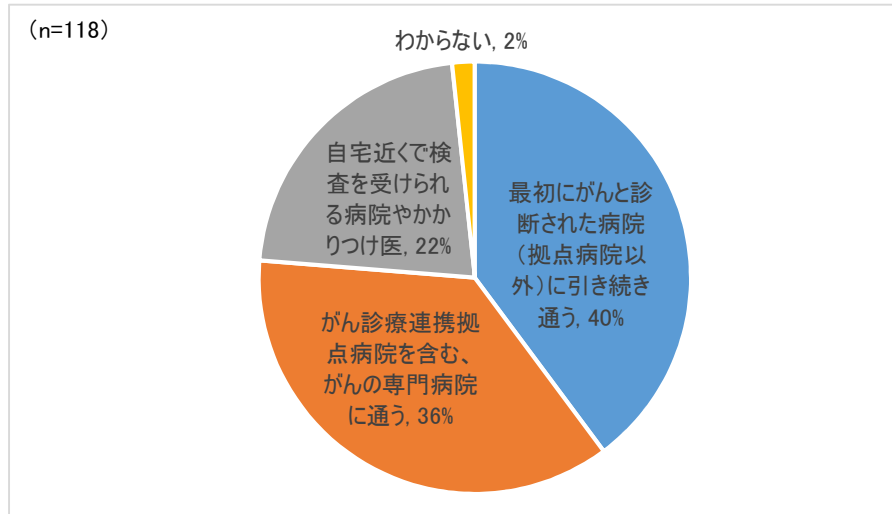
問 16 治療と仕事の両立など、就労に関してどこに相談しましたか。



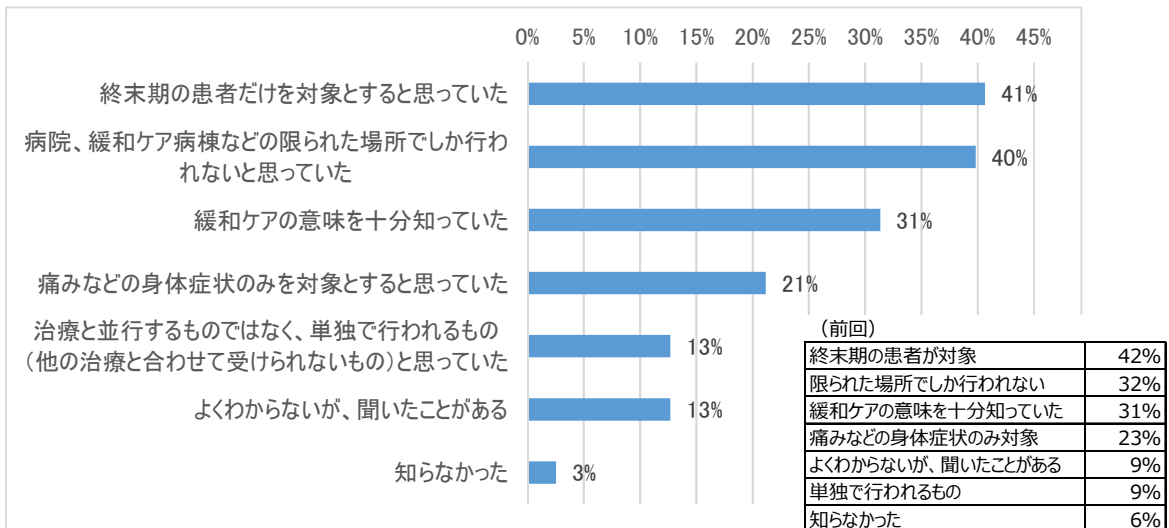


◆ 以下は、すべての方への質問です。

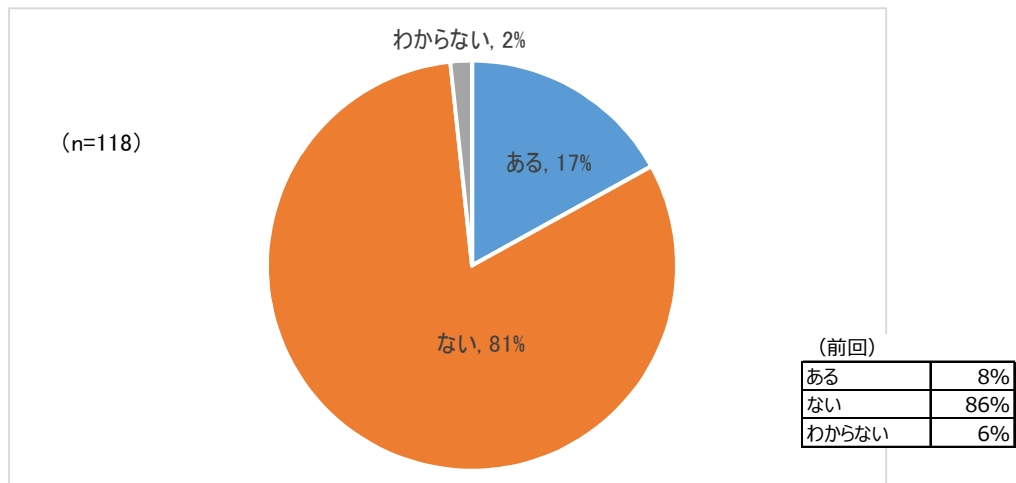
問 17 治療が一段落して定期的な検査のための通院となった時、どこにかかりたいですか。



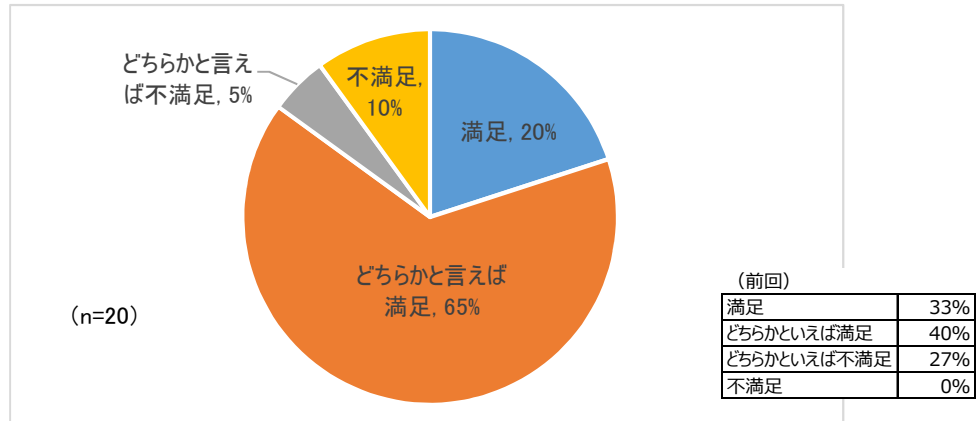
問 18 緩和ケアについて、あなたにとって当てはまるものはどれですか。



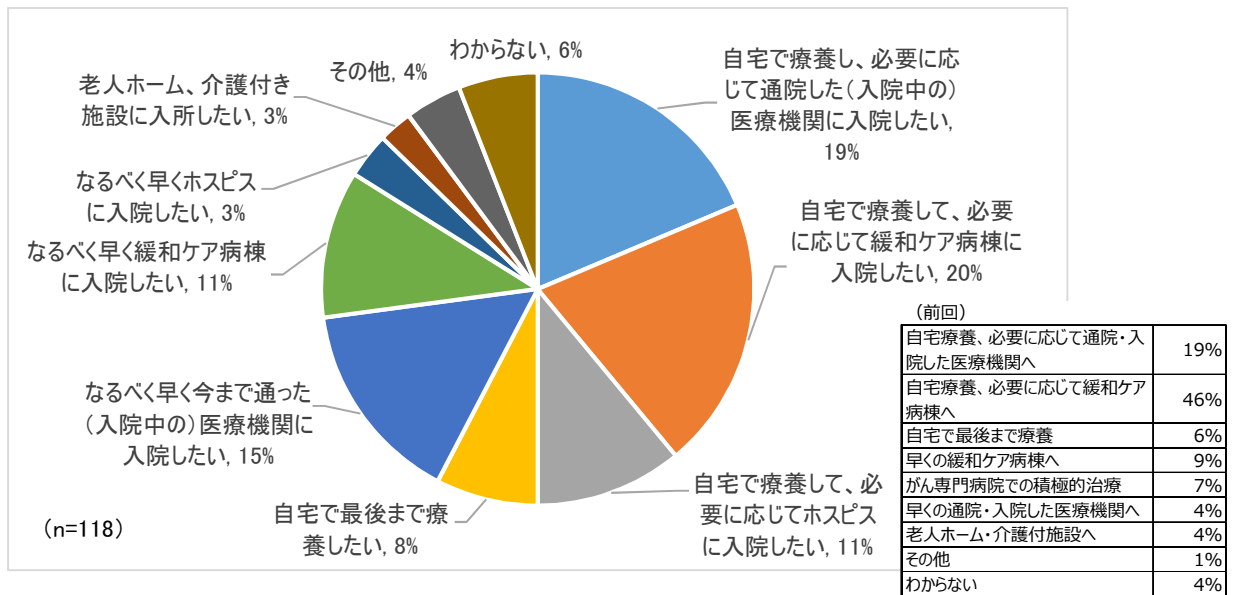
問 19-1 あなた（患者さん）は、がんの緩和ケアを受けたことがありますか。



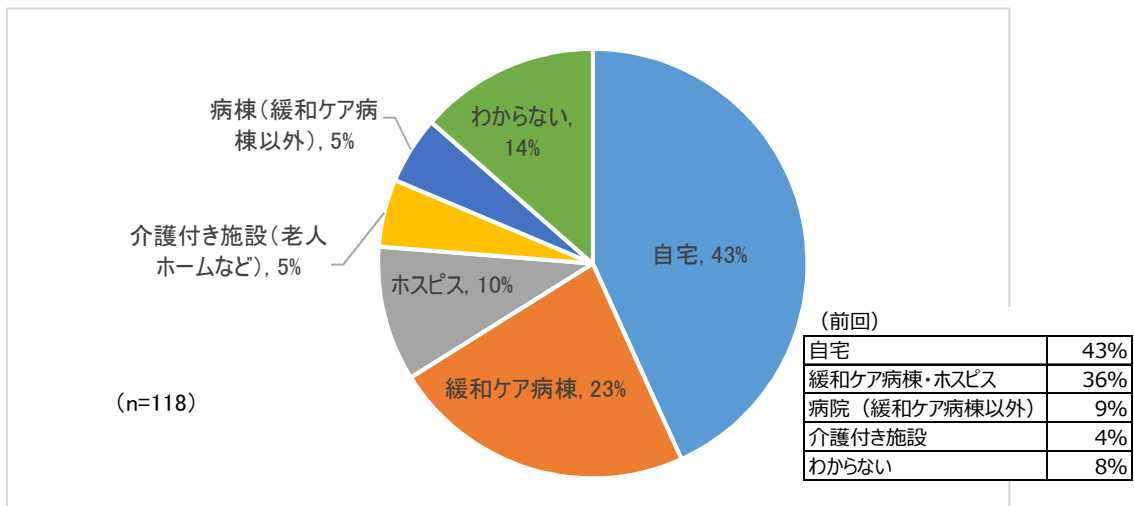
問 19-2 提供された緩和ケアは満足いくものですか。(問 19-1 で「ある」と答えた方)



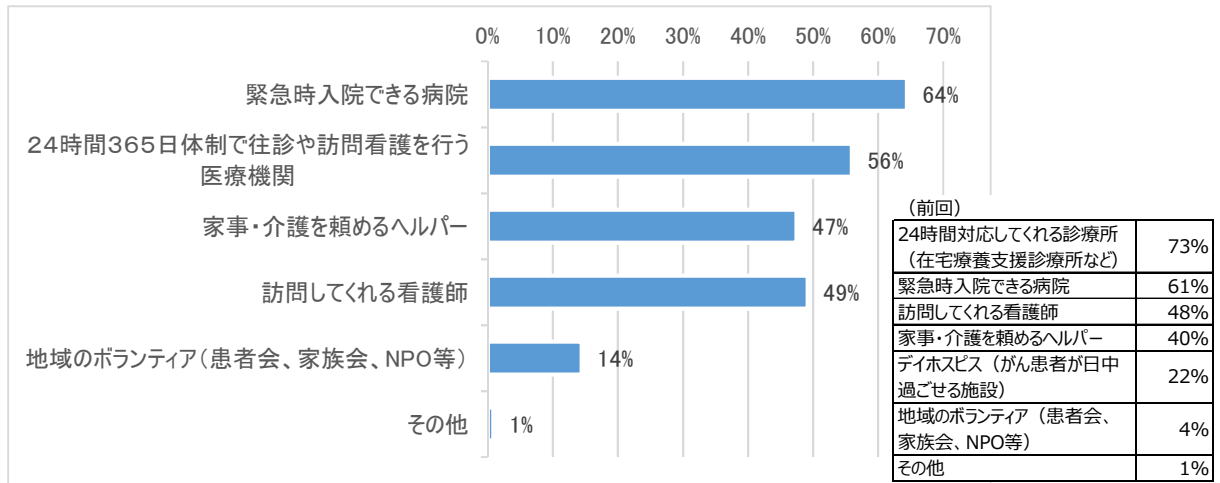
問 20 がんに対する積極的な治療を行わず症状緩和に専念する場合、どこで過ごしたいと思いますか。



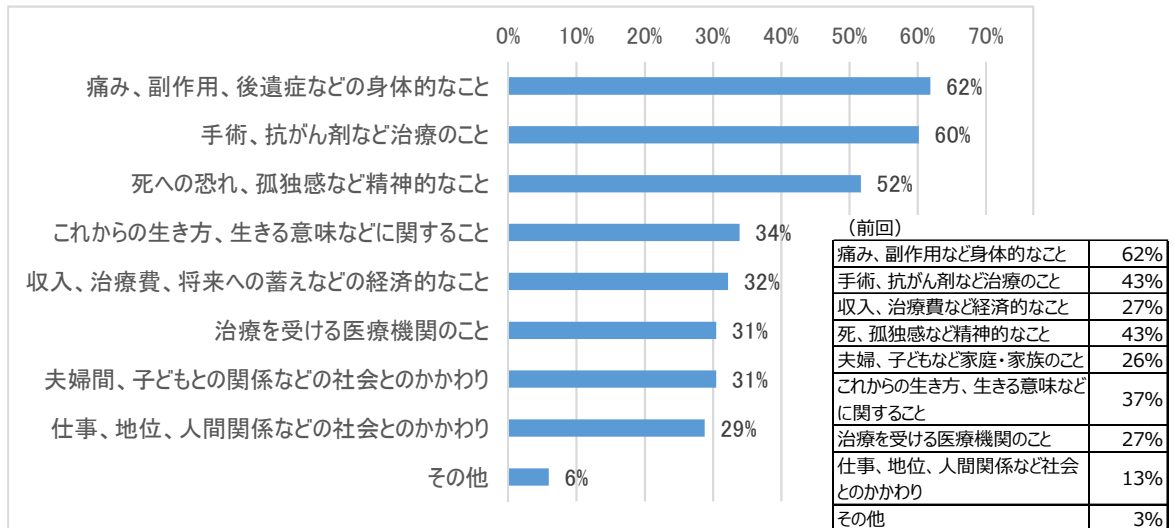
問 21 不快な症状や痛みが自宅(施設)においても緩和できるとしたら、どこで最期を迎えたいと思いますか。



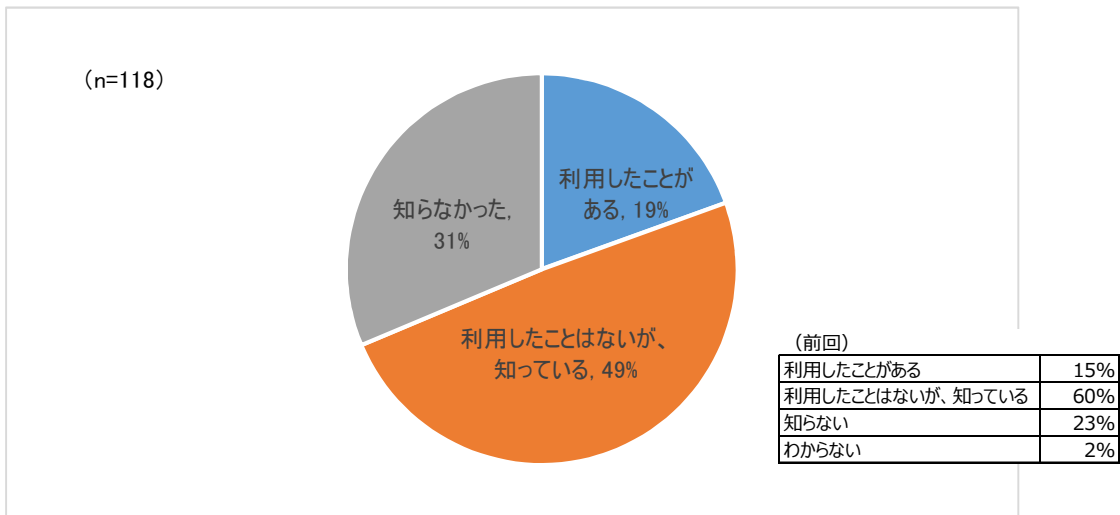
問 22 ご自宅で過ごすことを想定した場合、どのようなサービスの充実を望みますか。



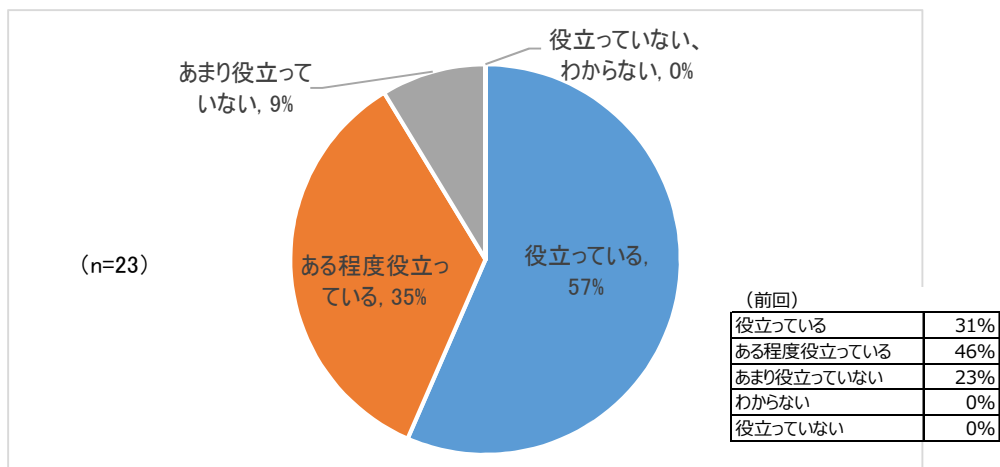
問 23 がんの診断や治療を通して、どのようなことについて悩みましたか。



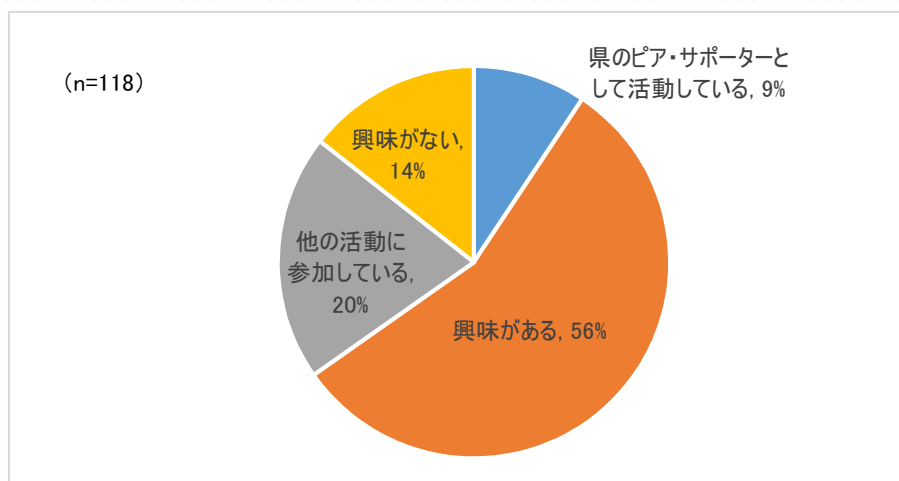
問 24-1 がん診療連携拠点病院等に設置されているがん相談支援センターを利用したことはありますか。



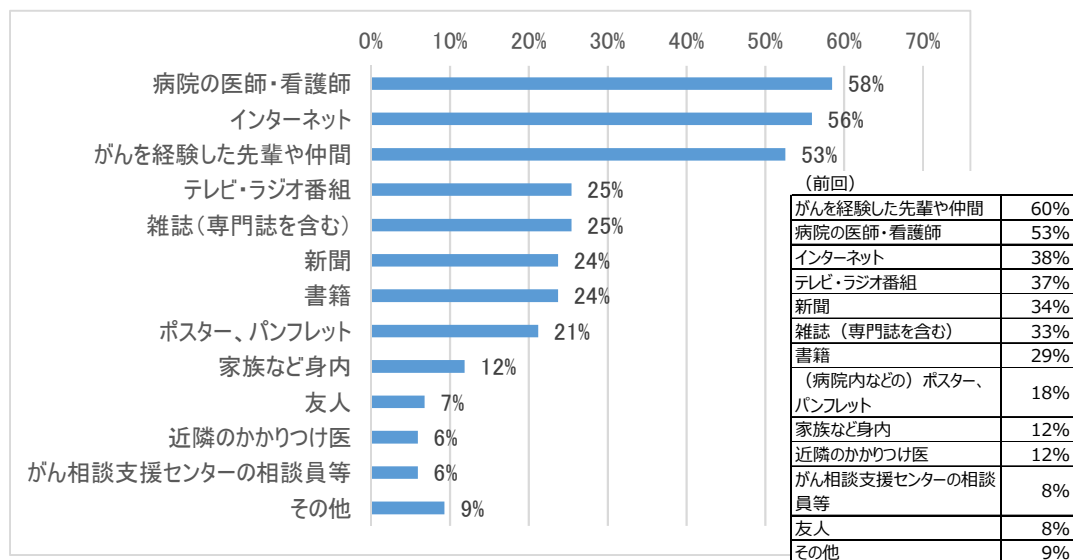
問 24-2 「がん相談支援センター」の取組が患者への相談支援・情報提供に役立っていると思いますか。（問24-1で「利用したことがある」と答えた方。）



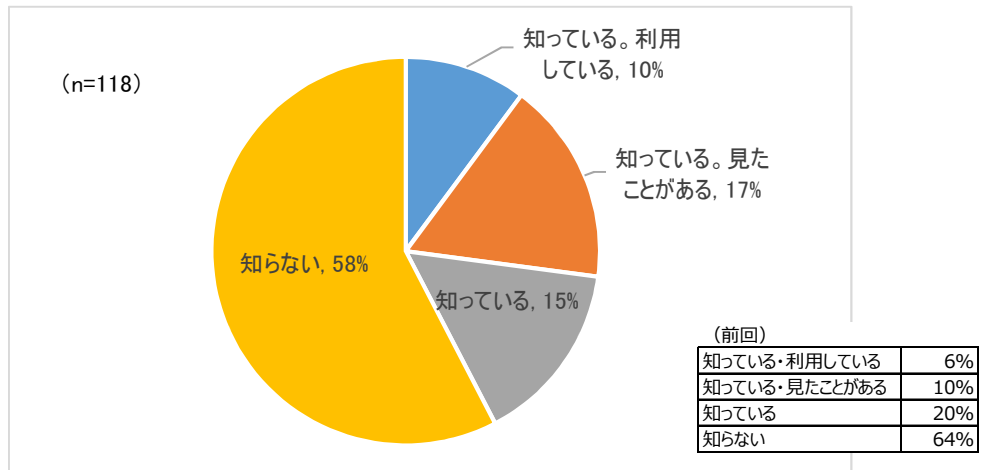
問 25 県では、がん患者やその家族を支援することを目的として、がん経験者によるピア・サポート活動を推進しています。あなたはピア・サポート活動をどのようにお考えですか。



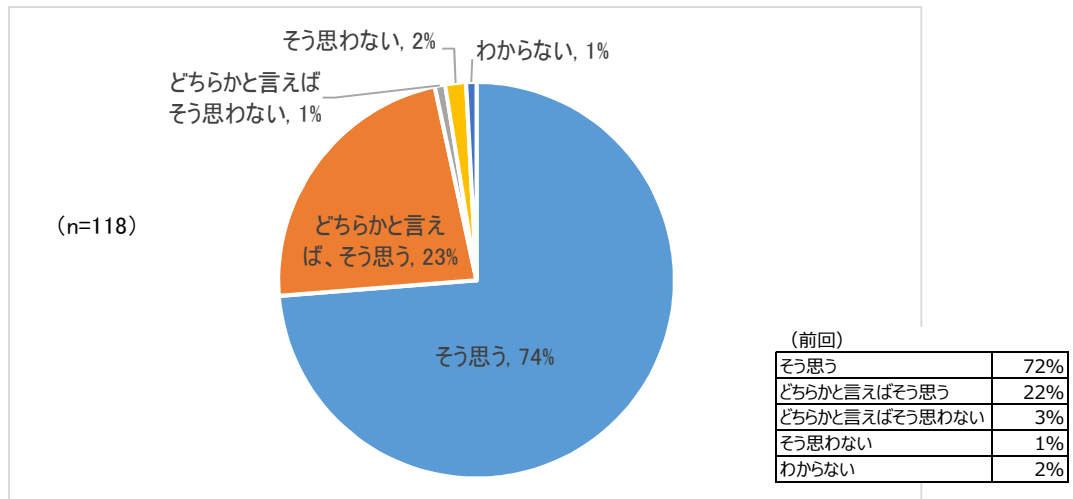
問 26 あなたは、どのようなところからがんに関する情報を得ていますか。



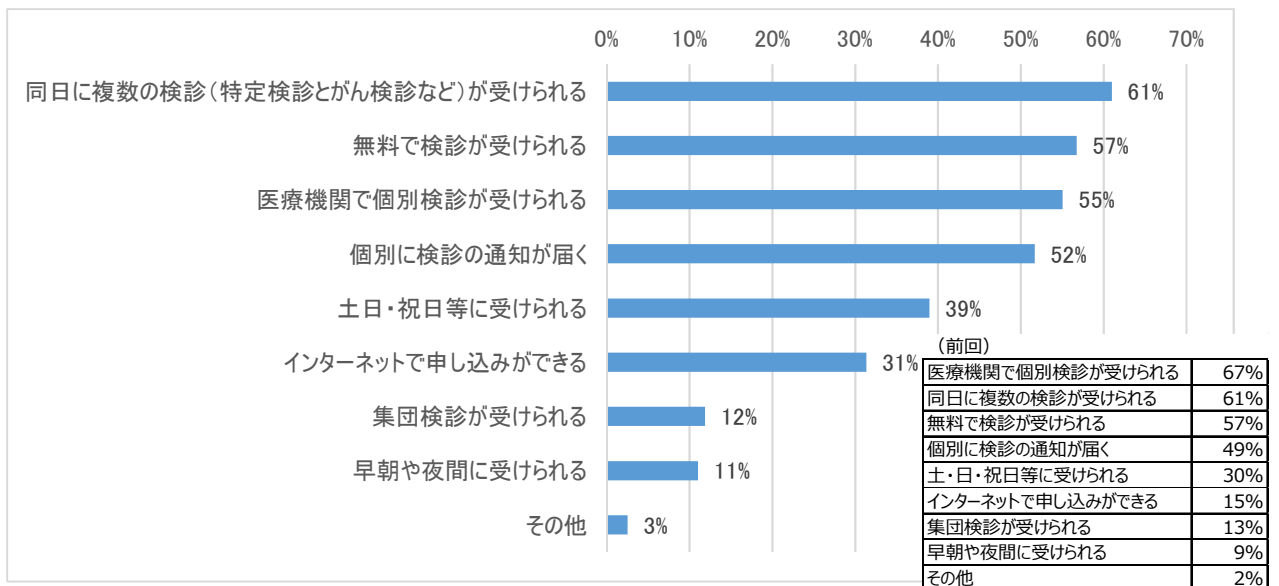
問27 あなたは、がん専用サイト 千葉県がん情報「ちばがんナビ」を知っていますか。



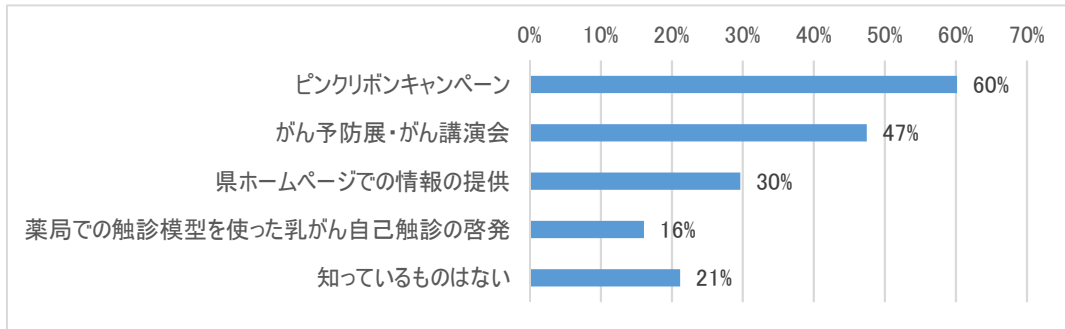
問28 がん検診は、がんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思いますか。



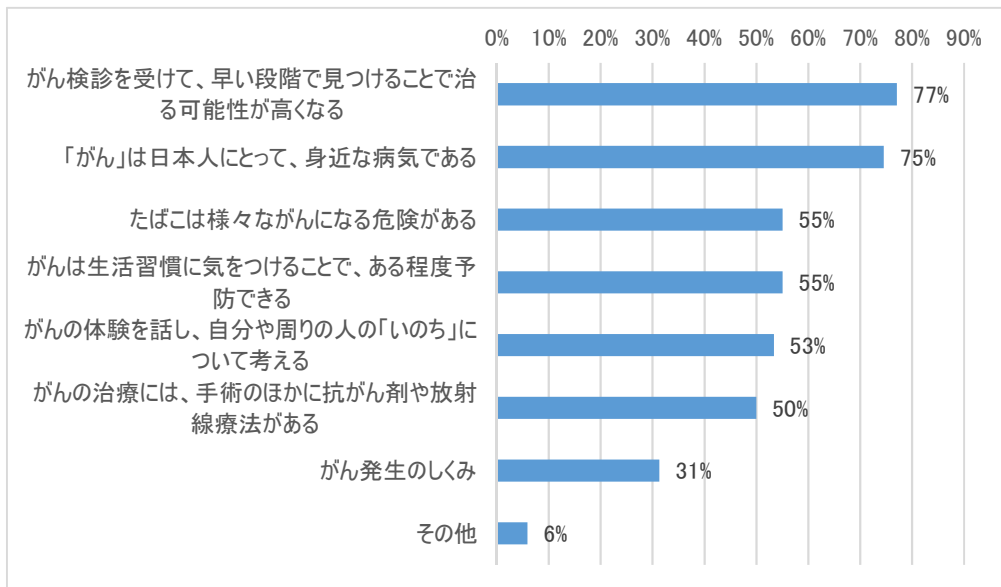
問29 がん検診を受診する際、どのようなサービスやシステムがあれば受けやすいですか。



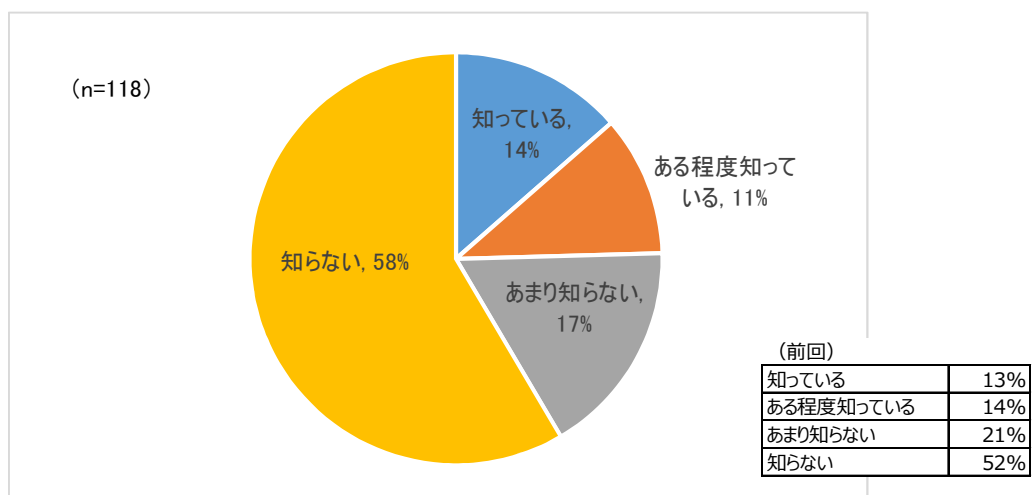
問 30 県で実施しているがん検診の受診率向上のための取組のうち、あなたが知っているものはどれですか。



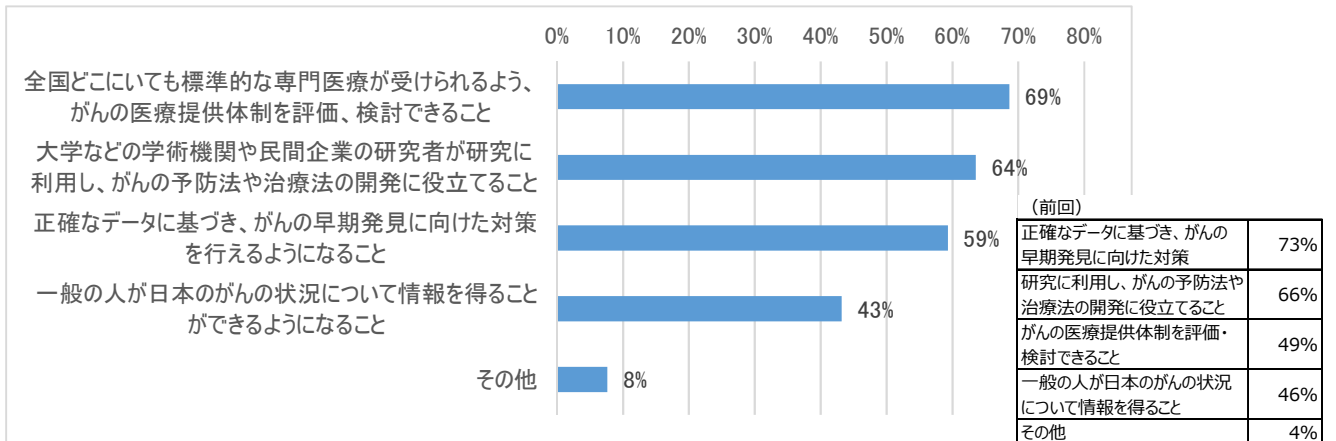
問 31 子どもの頃から自他の健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい理解を深めるための「がん教育」をあなたが行うとしたら、子どもたちにどのようなことを伝えたいですか。



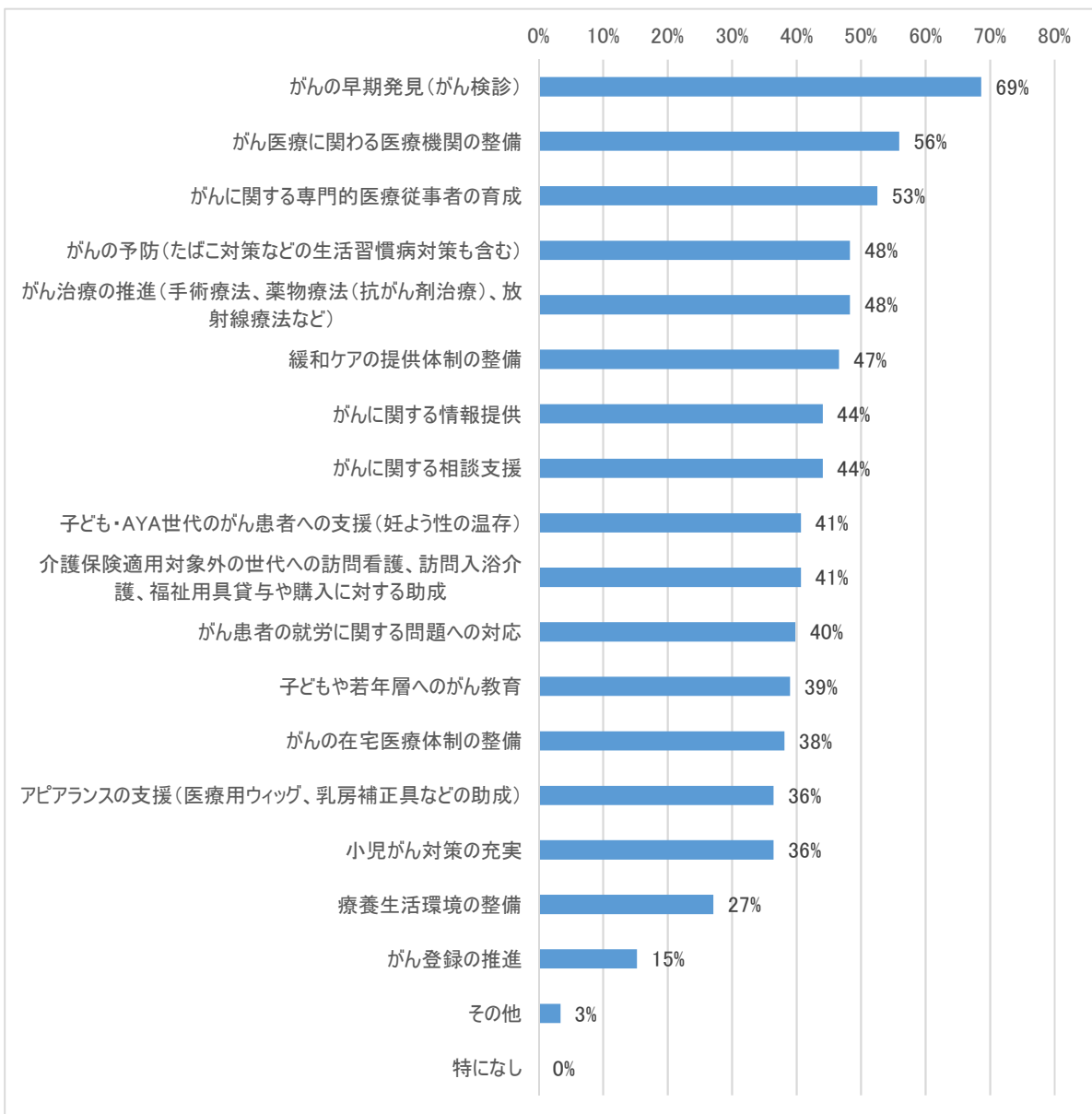
問 32-1 日本でがんと診断されたすべての人のデータを、国で1つにまとめて集計・分析・管理する「全国がん登録事業」が平成28年1月から始まったことを知っていますか。



問 32-2 全国がん登録事業によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できますが、あなたは何に期待しますか。



問 33 あなたは、がん対策について、県としてどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。



問 34 その他、県のがん対策についてのご意見

1	がん患者である息子は18歳になりました。先日、保険会社から通知が来て、こども型からの切り替えを行いました。一度がんになると入れる保険があまりないため、少しでもいいタイプに切り替えたいと思いましたが、経過観察している場合は切り替え前と同程度のものしかダメだと言われました。治療終了して10年以上経ち、現在は普通の人と全く変わらない暮らしをしています。病院で長期フォローアップしてもらっていてとてもありがたいのと同時に、保険契約の障害となるとは思っていませんでした。これも、がん患者は「完治」という言葉を使えないからかと思いました。一度がんを経験したら、一生がん患者としてしか生きていけないのでしょうか。小児がん経験者は大人になっても一生がん患者という肩書が消えないのでしょうか。例えば、治療終了して何年経過したら完治同等と認めるとか、特にこどもにとってはそういう指針があればいいと思います。生きていく希望につながると思います。県のがん対策には直接関係ないかもしれませんが、こういう意見はどこに言えばいいのかわからなかったので書かせていただきました。
2	県のがんセンターでは、新しい病棟もでき、期待いっぱいです。精神腫瘍科、漢方外来、専門看護師による相談など、特化した部分を強化して欲しい。
3	末期の卵巣がんでしたが、緩和ケアによって本人が楽に旅立つことができました。
4	何故がんが多くなっているかを、しがらみを超えて原因を明らかにしていけると良いと思います。そして治療をドクターに遠慮なく選べる雰囲気づくりやすすすめられた治療を断ってもそれを受け入れて、通院できるようになると精神的に楽になると思います。
5	私は視床下部に細胞腫ができ、オペ(手術)できません。乳がんは初期に見つかり、オペで取れるようになりなんてありがたいことかと思えます。 字を書くのはとても大変です。でもリハビリです。コロナでがん検診を受診なさらない方が多いですが、コロナで亡くなる方よりもがんで亡くなる方が多い事実を知ってください。
6	食道がんが初めての「がん」でしたが、その後の検診は大切です。 私も下咽頭がん・食道と胃の接合部のがんで4回ほど早期発見されました。
7	病気になってもみんながよりよく生きられる社会になると良いと思います。
8	がんにならない予防医療の部分を充実させられると良い。 正しい食事、生活習慣の情報提供や質のいい日用品や食を提供できる企業が増えると良いと思います。
9	細かいことでも何でも気軽に相談をして、その答えが出るようにして欲しい。
10	集団検診で早期のがんが見つかり、手術で助かりました。自分では進んでは行きませんが、通知が来ることで受診する人も多いと思います。 初めの肺がんから23年ぶりに集団検診で胃がんが見つかり、内視鏡で手術することが出来ました。検診は大事です。
11	県の対策について初めて知る事が多かった。当方県健康福祉部の障害者福祉推進課(生涯福祉課)の皆様には大いなるお世話になり、予算もいただき、既に40年の歴史を重ねた支援団体で指導員、役員を続けてまいりました。課長様以下大変熱心にご支援いただき、感謝しております。この度同じ健康福祉部内の健康づくり支援課の皆様にご接する機会が出来、幸甚です。「がん」とは、命とは何かを問う課題です。さらなるPRをお願いしたい。
12	行政や病院の中に相談できるセンターがありますが、一般的な相談を気軽にできる場所(サロンなど)をもっと作ってほしいと思う。
13	県の支援としては支援金を出すくらいなのでしょう。AYA世代として、治療をしながら働ける職場を増やしてほしいです。障がい者施設によるクッキーや雑貨などの販売があるように「がん患者のための仕事ができる施設」があってもいいと思います。がん患者のデータを集めて公表するだけでは支援にはつながりません。
14	医療提供者への報酬や手当の上乗せを希望。オンライン診療の県独自の予算の創設。医療者と患者会の交流の場の創設、双方が理解しあえる場を作り、時間の無駄を省き、相互理解を進める。



15	がんになっても永生きする人は多くなっていますので、がん治療と高齢者、障がい者対策の一元化が求められます。
16	各地（各県に）マギーズハウスのようなものがあるといい。（病院でも、自宅でもなく本人の居場所となるようなところ） このようなアンケートを実施して下さり、ありがとうございます。 一人でも関心のある方の目に触れてほしいものです。 私は退職してからがんが見つかったのですが、現役の方の場合は職場に理解が必要です。まして子育て中の方の場合は大変なようです。病気は患者を選びません。今、私はタオル・帽子づくりや、緩和ケア病棟の訪問等、自分のできることを実施しています。
17	治療をするのに限度額申請をしても毎月 44,000 円の治療費が一つの病院でかかってしまう。 がんになる前は働いていたが、働けず、いつまで支払えるのか不安である。70 歳以上の人が同じ治療をしても年間 144,000 円しかかからないのであまりにも不公平だと思う。 毎月 44,000 円かかるのとではあまりに違い過ぎる。長期治療が必要な大病は 70 以上と同じにして欲しい。病気に関しては老人も若い人も同じだと思う。家族を持った若い人の方がずっと大変なはず。全世代公平な社会保障でなければいけないと思う。
18	患者支援も大切だが、患者の家族を支援する体制を整備して欲しい。 病院の看護師や事務の知識がなさすぎる。「よりそう介護」よりも基本的なことをしっかりとって欲しい。 標準治療のできる病院を増やしてほしい。
19	早期発見、早期治療に勝るものなし！！
20	私はオストメイトです。内部障害のため地震・災害時に避難した時、オストメイト用の仮設トイレ等の対応などして頂きたい
21	私の知る限りでは、千葉県の対策は 70%位の整備が出来ていると思います。今後も前向きに進めてほしい。
22	生活基盤を完成した年齢層の方ががん発病に比べ、小児慢性特定疾病の対象外の AYA 世代のがん患者の方は経済的にも人生におけるさまざまな面でも大変な思いをされていると感じます。少しでも負担が軽減されるように公的支援制度の検討をお願い致します。
23	県が行なっているがん対策についてよく知らないのでも言えない。まずは県がどういう立場でがんに関わっているのかを周知してほしい。
24	標準治療と言いながら各病院で治療内容に差が有りすぎる（公立より私立の方が検査内容や検診の頻度や薬の服用期間など） 例えば、過度な検査をする病院ではステージ 0 なのに PET を毎年 1 回する、年に 2 回 MRI をするなど知識を得れば必要が無いと思われる検査なのですが、知識が無い時は検査をして貰えない事がストレスになった。やり過ぎの病院に対しては指導が有っても良いと思う
25	稀な希少癌等の治療実績やそれによる予後等を公開して患者や家族に対して情報公開をして欲しい。特に未分化ガン等。
26	大腸癌や胃癌の内視鏡検査や肺癌の CT 検査などの充実、痛くない乳がん検査をすすめて欲しい。医師には、単純レントゲンや CT の読影の能力を向上させて頂きたい。
27	千葉県内のイオン全店の「イオンの幸せの黄色いレシートキャンペーン」にも参加してみてもいいと思う。検診の受診を推進し、受診率を向上させるきっかけとなるかもしれません。
28	早期発見、早期治療が一番だと思います。おかげで元気に仕事を頑張っています。

「千葉県がん対策に関するアンケート」

本調査は、第3期千葉県がん対策推進計画の中間評価に当たり、千葉県が進めているがん対策について、主に県内のがん患者等の方を対象に率直なご意見を伺うことを目的に行います。

ご回答いただいた調査票は、計画の評価や個別目標の見直し等、今後のがん対策の方向性を検討していくための貴重な資料として有効に活用させていただきます。他の目的には使用いたしません。また、本調査の結果を公表する場合は、個人が特定できるような形で外部に公表されることは一切ございません。ぜひご協力いただけますようお願い申し上げます。

《ご記入上のお願ひ》

- お名前やご詳細な住所を記入する必要がありますありません。
- お答えは、当てはまるものの番号に○をつけるか、[ ] に記入してください。

本調査についてのお問合せ先 千葉県健康づくり支援課 がん対策班  
 電話：043(223)2686・2402 FAX：043(225)0322  
 E-mail:cantaisaku2@mz.pref.chiba.lg.jp

● 記入者について

問1 このアンケートの記入者はどなたですか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. がん患者（経験者を含む） 2. 家族 3. 遺族  
 4. その他 [ ]

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 20歳未満 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳  
 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

問3 あなたの性別について、次のうちのいずれかに○をつけてください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

問4 あなたの現在のお住まいの市町村名をご記入ください。

\_\_\_\_\_ (市・町・村)

※これからの質問（問5～問16）は、現在、治療中のがん患者さんにお聞きします。その他の方は、問17にお進みください。

問5 最初にがんと診断された年齢をご記入ください。

\_\_\_\_\_ 歳

問6 最初に診断されたがんの種類について、次の中から当てはまるものにくいつても○をつけてください（再発、転移を除く）。また、15の場合は、[ ]の中に具体的な内容をご記入ください。

1. 咽頭がん・喉頭がん 2. 肺がん 3. 食道がん 4. 胃がん  
 5. 肝臓がん 6. 膵臓がん 7. 乳がん 8. 子宮がん  
 9. 卵巣がん 10. 膀胱がん 11. 前立腺がん 12. 大腸がん  
 13. 白血病 14. 悪性リンパ腫 15. その他 [ ]

問7 最初に診断されたがんは、どのような状況で発見されましたか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。また、4の場合は、[ ]の中に具体的な内容をご記入ください。

1. がん検診・健康診断・人間ドックの受診がきっかけで見つかった  
 2. 自覚症状があり、病院受診で見つかった  
 3. 他の病気の治療中に見つかった  
 4. その他 [ ]

問8 これまでに受けた治療について、次の中から当てはまるものにくいつても○をつけてください。また、4の場合は、[ ]の中に具体的な内容をご記入ください。

1. 手術（外科治療、内視鏡・胸腔鏡・腹腔鏡手術を含む）  
 2. 薬物療法（抗がん剤治療、ホルモン療法、分子標的治療を含む）  
 3. 放射線療法  
 4. その他 [ ]

問9 がん治療を受けるにあたって、医療関係者から病気や治療について説明を受けましたか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 説明を受けて、理解できた  
 2. 説明を受けたが、理解できなかった  
 3. はっきりとした（十分な）説明を受けた記憶がない  
 4. 説明を受けた記憶がない

問 10 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」(※)について、どのように説明されましたか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

- ※ セカンド・オピニオンとは  
よりよい決定をするために、もう一人の  
人から聴取する意見。医療の分野では、  
一人の医師の意見だけを聞いて決めてし  
まわずに、別の医師の意見も聞いて患者  
が治療法などを決めることを指す。
1. セカンド・オピニオンを受けることを積極的に勧められた
  2. セカンド・オピニオンを受ける方法もあることを説明された
  3. 特に説明されなかった
  4. わからない・覚えていない

問 11 あなたは、がん治療にあたって「セカンド・オピニオン」が必要だと思いますか。

- 次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。
1. 必要だと思う
  2. どちらかと言えば、必要だと思う
  3. どちらかと言えば、必要ではない
  4. 必要ではない
  5. わからない

問 12 最初にごんと診断された時に、収入のある仕事をしていましたか。

1. していた 1問 13にお進みください 1問 17にお進みください  
2. していない 3. わからない・覚えていない
- 問 13 あなたの診断時の職業は何でしたか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。また、8の場合は、[ ]の中に具体的内容を記載してください。
1. 自営業(家族従業員)
  2. 会社正社員
  3. 会社役員
  4. 公務員
  5. 派遣・契約・嘱託職員
  6. パート・アルバイト
  7. 内職
  8. その他 [ ]

問 14 現在、診断時の職場との関係はどのようになっていますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。また、8の場合は、[ ]の中に具体的内容を記載してください。

1. 現在も同じ職場で勤務中、同じ仕事を継続中
2. 診断時と別の部署に異動した
3. 休職(休業)中
4. 依願退職した
5. 解雇された
6. 廃業した
7. 定年退職した
8. その他 [ ]

問 15 診断時の仕事を継続することに対する事業主の理解・支援は得られましたか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。また、7の場合は、[ ]の中に具体的内容を記載してください。

1. 十分得られた
2. ある程度得られた
3. 得られなかった
4. 理解は得られたが、支援は必要なかった
5. 自営業、経営者である
6. 理解は必要なかった
7. その他 [ ]

問 16 治療と仕事の両立など、就労に関してどこに相談しましたか。次の中から当てはまるものはいくつでも○をしてください。また10の場合は、[ ]の中に具体的内容をご記入ください。

1. 医療機関(主治医)
2. がん相談支援センター(がん診療連携拠点病院内設置)
3. 就労中の事業所(人事担当)
4. 就労中の事業所(直属の上司)
5. 社会保険労務士
6. 産業医
7. 産業保健総合支援センター・地域産業保健センター
8. がん患者団体・がん患者支援団体
9. 相談しなかった
10. その他 [ ]

※ これからの質問(問17～問34)は、すべての方にお聞きします。

問 17 治療が一段落して定期的な検査のための通院となった時、あなたは次のどこにかけたいですか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. がん診療連携拠点病院(※)を含む、がんの専門病院に通う
  2. 最初にごんと診断された病院(上記1以外の病院)に引き続き通う
  3. 自宅の近くに同じ検査を受けられる病院やかかりつけ医があればそこに通う
  4. わからない
- ※ がん診療連携拠点病院とは  
どこの地域に住んでいても  
同程度の医療が受けられる  
よう、がん医療水準の向上と  
地域格差の解消を目的として、  
国が一定の要件を満たす医療  
機関を「がん診療連携拠点  
病院」として指定したもの。  
我が国に多いがん(肺がん、  
胃がん、大腸がん、肝がん、乳  
がん)に対応。

問 18 緩和ケア(※)について、あなたにとって当てはまるものはどれですか。

- 次の中から当てはまるものはいくつでも○をつけてください。
1. 緩和ケアの意味を十分知っていた
  2. 痛みなどの身体症状のみを対象にと思っていた
  3. 終末期の患者だけを対象にと思っていた
  4. 治療と並行するものではなく、単独で行われるもの(他の治療と合わせて受けられないもの)と思っていた
  5. 病院、緩和ケア病棟などの限られた場所で行われたいと思っていた
  6. よくわからないが、聞いたことがある
  7. 知らなかった

問 21 不快な症状や痛みが自宅（施設）においても緩和できるとしたら、どこで最期を迎えたいと思いますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                    |           |          |       |
|--------------------|-----------|----------|-------|
| 1. 病院（緩和ケア病棟以外）    | 2. 緩和ケア病棟 | 3. ホスピス  | 4. 自宅 |
| 5. 介護付き施設（老人ホームなど） | 6. その他    | 7. わからない |       |

問 22 ご自宅で過ごすことを想定した場合、どのサービスの充実を望みますか。次の中から当てはまるものにくつでも○をつけてください。また、6の場合は、[ ] の中に具体的内容をご記入ください。

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 24 時間 365 日体制で往診や訪問介護を行う医療機関 |
| 2. 緊急時入院できる病院                   |
| 3. 訪問してくれる看護師                   |
| 4. 家事・介護を頼めるヘルパー                |
| 5. 地域のボランティア（患者会、家族会、NPO 等）     |
| 6. その他 [ ]                      |

問 23 がんの診断や治療を通して、どのようなことについて悩みましたか。次の中から当てはまるものにくつでも○をつけてください。また、9の場合は、[ ] の中に具体的内容をご記入ください。

- |                           |
|---------------------------|
| 1. 死への恐れ、孤独感など精神的なこと      |
| 2. 痛み、副作用、後遺症などの身体的なこと    |
| 3. 夫婦間、子どもとの関係などの家庭・家族のこと |
| 4. 仕事、地位、人間関係などの社会とのかかわり  |
| 5. 手術、抗がん剤など治療のこと         |
| 6. 治療を受ける医療機関のこと          |
| 7. 収入、治療費、将来への蓄えなどの経済的なこと |
| 8. これからの生き方、生きる意味などに関すること |
| 9. その他 [ ]                |

問 24-1 がん診療連携拠点病院等に設置されているがん相談支援センター（※）を利用したことはありますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |                     |
|---------------------|
| 1. 利用したことがある        |
| 2. 利用したことはないが、知っている |
| 3. 知らなかった           |
- ※ がん相談支援センターとは  
がん医療に関する相談、セカンド・オピニオンを受けられる医師の紹介、がん検診に関する情報発信や相談、就労や療養生活に関することなど、がんについての様々な相談を受ける窓口です。

※ 緩和ケアとは  
生命を脅かす疾患に伴う痛みをはじめとする身体の不らさ、気持ちのつらさ、生きている意味や価値についての疑問、療養場所や医療費のことなど、患者や家族が直面するさまざまな問題に対し援助することによって、クオリティ・オブ・ライフ（QOL：生活の質）を改善するアプローチ。  
病気の時期や治療の場所を問わず、いつでもどこでも提供される必要があるとされている。

問 19-1 あなた（患者さん）は、がんの緩和ケアを受けたことがありますか。次のうちのいずれかに○をつけてください。

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

問 19-2 問 19-1 で「ある」と答えた方に質問します。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

- |       |               |                |        |
|-------|---------------|----------------|--------|
| 1. 満足 | 2. どちらかと言えば満足 | 3. どちらかと言えば不満足 | 4. 不満足 |
|-------|---------------|----------------|--------|

問 20 がんに対する積極的な治療を行わず症状緩和に専念する場合、どこで過ごしたいと思えますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。また、10の場合は、[ ] の中に具体的内容をご記入ください。

- |   |
|---|
| 1. なるべく早く今まで通った（又は現在入院中の）医療機関に入院したい         |
| 2. なるべく早く緩和ケア病棟（※）に入院したい                    |
| 3. なるべく早くホスピス（※）に入院したい                      |
| 4. 自宅で療養して、必要に応じて今まで通った（又は現在入院中の）医療機関に入院したい |
| 5. 自宅で療養して、必要に応じて緩和ケア病棟に入院したい               |
| 6. 自宅で療養して、必要に応じてホスピスに入院したい                 |
| 7. 自宅で最期まで療養したい                             |
| 8. 老人ホーム、介護付き施設に入所したい                       |
| 9. わからない                                    |
| 10. その他 [ ]                                 |

※ 緩和ケア病棟とホスピスとは  
緩和ケア病棟もホスピスも、がん患者さんを主な対象とし、体と心の苦痛緩和のための治療とケアを行う病棟です。  
緩和ケア病棟は、つらさをコントロールして、できる限り普段通りに生活することを主な目標としています。  
一方、ホスピスは最期まで希望通りに生きることを主な目標としています。

問 24-2 問 24-1 で「利用したことがある」と答えた方に質問します。

この「がん相談支援センター」の取組が患者への相談支援・情報提供に役立っていると思いますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 役立っている
2. ある程度役立っている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない

問 25 県では、がん患者やその家族を支援することを目的として、がん経験者によるピア・サポート活動（※）を推進しています。あなたはピア・サポート活動をどのようにお考えですか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 県のピア・サポーターとして活動している

2. 他の活動に参加している

3. 興味がある

4. 興味がない

※ピア・サポートとは

患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。

問 26 あなたは、どのようなところからがんに関する情報を得ていますか。次の中から当てはまるものにくいつでも○をつけてください。また、13の場合は、[ ]の中に具体的内容をご記入ください。

1. 病院の医師・看護師

2. 近隣のかかりつけ医

3. 家族など身内

4. がん相談支援センターの相談員等

5. 同じようながんを経験した先輩や仲間

6. 友人

7. 新聞

8. 雑誌（専門誌を含む）

9. 書籍

10. (病院内などの) ポスター、パンフレット

11. テレビ・ラジオ番組

12. インターネット

13. その他 [ ]

問 27 がん専用サイト 千葉県がん情報「ちばがんナビ」では、がんに関する知識や県内の医療機関、不安や悩みを相談できる身近な窓口、各種の支援制度などを紹介しています。あなたは、「ちばがんナビ」を知っていますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

(ちばがんナビ <https://www.pref.chiba.lg.jp/pbgnv/>)

1. 知っている。利用している
2. 知っている。見たことがある
3. 知っている
4. 知らない

問 28 がん検診は、がんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思いますか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかと言えば、そう思う
3. どちらかと言えば、そう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 29 がん検診を受診する際、どのようなサービスやシステムがあれば受けやすいですか。次の中から当てはまるものにくいつでも○をつけてください。また、9の場合は、[ ]の中に具体的内容をご記入ください。

1. 個別に検診の通知が届けられる

2. 土・日・祝日等に受けられる

3. 早期や夜間に受けられる

4. 集団検診（指定された日時と場所で検診車などを利用して集団で行う検診）

5. 医療機関で個別検診が受けられる

6. 同日に複数の検診（特定健診（※）とがん検診など）が受けられる

7. 無料で検診が受けられる

8. インターネットで申し込みができる

9. その他 [ ]

※ 特定健診とは

日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの方を対象に、メタボリックシンドロームに着目して行う健診のこと。

(メタボ健診と呼ばれることもある)

問 30 県では、がん検診の受診率向上を目指して様々な取組を行っていますが、次の中からあなたが知っているものにくいつでも○をつけてください。

また、この他、受診率向上のために効果的と思われる取組がありましたら [ ] 内にご記入ください。

1. がん予防展・がん講演会

2. ピンクリボンキャンペーン

3. 薬局での触診模型を使った乳がん自己触診の啓発

4. 県ホームページでのがん検診に関する情報の提供

5. 知っているものはない

この他、受診率向上のため効果的と思われる取組がありましたらご記入ください。 [ ]

問 31 子どもの頃から、自他の健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい理解を深めるための「がん教育」をあなたが行うとしたら、子どもたちにもどのようなことを伝えたいですか。次の中から当てはまるものはいくつでも○をつけてください。また、8の場合は、[ ]の中に具体的内容をご記入ください。

1. 「がん」は日本人にとって、身近な病気である
2. がん発生のしくみ
3. たばこは様々ながんになる危険がある
4. がんは生活習慣に気をつけることで、ある程度予防できる
5. がん検診を受けて、早い段階で見つけることで治る可能性が高くなる
6. がんの治療には、手術のほか抗がん剤や放射線療法がある
7. がんの体験を話し、自分や周りの人の「いのち」について考える
8. その他 [ ]

問 32-1 日本でがんと診断されたすべての人のデータを、国で1つにまとめて集計・分析・管理する「全国がん登録事業」が平成28年1月から始まりましたが、あなたは、このような取組をご存知ですか。次の中から当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 知っている
2. ある程度知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

問 32-2 全国がん登録事業によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できますが、あなたは何に期待しますか。次の中から 当てはまるものはいくつでも○をつけてください。また、5の場合は、[ ]の中に具体的内容をご記入ください。

1. 正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること
2. 大学などの学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること
3. 一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること
4. 全国どこにいても標準的な専門医療が受けられるよう、がんの医療提供体制を評価・検討できること
5. その他 [ ]

問 33 あなたは、がん対策について、県としてどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から当てはまるものはいくつでも○をつけてください。また、19の場合は、[ ]の中に具体的内容をご記入ください。

1. がんの予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）
2. がんの早期発見（がん検診）
3. がんに関する専門的医療従事者の育成
4. がん医療に関わる医療機関の整備
5. がんに関する情報提供
6. がんに関する相談支援
7. がん治療の推進（手術療法、薬物療法（抗がん剤治療）、放射線療法など）
8. 緩和ケアの提供体制の整備
9. がん登録の推進
10. がんの在宅医療体制の整備
11. 子どもや若年層へのがん教育
12. 小児がん対策の充実
13. 療養生活環境の整備
14. がん患者の就労に関する問題への対応
15. アピアランスの支援（医療用ウィッグ、乳房補整具などに対する助成）
16. 子ども・AYA世代（※1）にあるがん患者への支援（妊よう性の温存（※2））
17. 介護保険適用対象外の世代への訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与や購入に対する助成
18. 特になし
19. その他 [ ]

※1 AYA世代とは

Adolescent and Young Adult（思春期や若年成人）の略で、一般的に15歳から39歳までの年齢層を指す。

※2 妊よう性の温存とは

妊よう性とは妊娠するための力のこと。がんの治療により生殖機能が弱くなることから、治療開始前に卵子や精子、受精卵などを採取・凍結保存して、将来に自分の子どもを持てる可能性を残します。

問 34 その他、県のがん対策についてのご意見など、自由にご記入ください。



ご協力いただきありがとうございます